

【実践報告】

「大学祭での卒業研究展示と看護ケアの提供が学生や地域住民に与えた影響」

The Effect of Graduate Studies Poster Presentations and Nursing Care Service
Administered to Community Residents and Students at Meio Festival

佐和田 重信, 稲垣 絹代, 石川 幸代

要旨

大学としての地域貢献が求められている中、看護学科の高齢者・在宅ケア領域では名桜大学祭において4年次の卒業研究展示及び看護ケアの提供を実施し、地域住民や学生にどのような影響を及ぼしているのか、また、今後の名桜大学祭での看護学科の取り組みについて検討を行った。

その結果、来場した学生へは卒業論文作成の知識やイメージ作りに貢献していた。また、卒業研究展示や看護ケアを実施した学生には終了後の満足感や充実感があり、様々な学びを得る機会となっていた。

地域住民へは自らの健康について意識を高めるだけでなく地域の状況を把握しながら、地域の健康についても考える機会となっていた。一方、健康志向が高まっている現在において地域住民からの様々な相談や要望も寄せられ、その要望に応えられるよう看護学科のある大学としての特色を生かした多くの企画に取り組む必要性が示唆された。さらに、大学における教育・研究内容について地域住民への周知が不十分な事も考えられ、より積極的なアピールが必要と考えられた。

I.はじめに

大学の主要な役割は学生教育と各専門分野の研究であり、加えて現在社会では地域に開かれた大学としての地域貢献が大きな役割として求められている。このような要求にこたえるため、多様な公開講座の開催や対外活動、情報の発信などが多くの教員によって企画され、地域貢献として取り組まれている。そのような中、毎年行われる大学祭は各種のイベントを通して学生、教職員、そして地域住民が交流しながら相互の親睦を深めることが大きな目的と考えられる。さらに、大学における教育・研究の成果を地域住民に還元し、関心と理解を促すことで大学の活性化や支援を得ることも重要な目的と考えられる。

本学における名桜大学祭も地域の人たちとの交流の場、そしてより地域に根差し密着した祭りとなるよう地域の保育園児から高校生などが毎年様々な企画に参加し、地域に定着してきている。学生自身が多く企画を考え自主的な催しを行っているが、看護学科の高齢者・在宅ケア領域の教員としても、過去2年間、以下の目的で4年次の卒業研究展示及び看護ケアの提供を学生とともに企画・実施してきた。①高齢者看護・在宅ケア領域の看護学生の卒業研究の成果を地域住民へ還元すること②来場した地域住民の健康についての意識を高め、必要な相談に応じること③看護ケアの提供を通して地域住民と交流を深めること④看護学科の情報を地域住民に提供することである。

上記の実践を通して、大学祭での卒業研究展示と看護ケアの提供が学生や地域住民にどのような影響を及ぼしたのか、また、今後の名桜大学祭での看護学科の取り組みや大学祭のあり方について検討を行ったので報告する。

II.研究方法

高齢者看護・在宅ケア領域では平成23年と平成24年の名桜大学祭で卒業研究展示と看護ケアの提供を企画、実施した。

平成24年度は看護学科4年生の高齢者看護・在宅ケア領域の学生16名の卒業研究のポスター展示と血管年齢及びバイタルサインの測定を実施し、2日間の来場者数は合計174名であった。

その際、来場者に感想シートを配布し、所属、年代、企画を何で知ったか、卒業研究展示及び提供した看護ケアについての感想、大学祭全体についての感想を自由意思のもとで協力を依頼し、83名の来場者から回答が得られた。また、展示した学生にも大学祭終了後に実施した感想を記入してもらった。

今回は平成24年度の来場者及び実施した学生の感想、来場者の教員への相談や要望をデータとして分析し、大学祭での卒業研究展示と看護ケアの提供が学生や地域住民にどのような影響を及ぼしたのか検討を行った。なお、感想を記入していただいた来場者及び学生には研究データとして利用することを口頭で説明し承諾を得た。

III.結果

1.感想シート回答者の内訳

来場者 174 名のうち 84 名から協力が得られた。回答者の内訳としては名桜大学学生 23 名、教員 3 名、他学生 14 名、地域住民 44 名であった。

2. 卒業研究展示の感想

1) 名桜大学学生の感想

21 名の名桜大学学生から回答が得られた。

「実習や今後の学びに活かせるような学びが多かった」「卒論の発表パワーポイントを見れて良かった」「自分自身の卒研につながりそうだと思います。看護の展示はいつも見るようにしています」「一人ひとり研究した内容を詳しく展示しているのでとても読みやすく、今後の自分の研究に生かしていくことができそうである。とても勉強になりました」「先月卒論を実際に見に行きました。4 月から先輩たちが取り組んでいるのをいつも見てきたので卒論ではどの先輩も成果を発揮できていたと思います。4 年生みたいな素敵な先輩になりたいです」など



評価は高く、その他「プレゼンを見てグラフを用いたものや文字を大きめにしているものが解りやすく感じた。こういう風にしてまとめていくんだと勉強になった。自分がこういうものを作るとき、今回みたいなものを参考にできるようにしたいと思った」「プレゼンテーションの方法が人によって違うことが分かった。文字が少なく、図が多用されているほうが見やすかった。研究方法がしっかりと定義されていてすごいと感じた」「厚い冊子をもらったので帰ってからしっかり読みたい。看護棟でなく講義棟でというのもよいと思います。K さんの展示でお年寄りもずっと生きがいを持って元気で生きてほしい。地域の人たちとあいさつ含め関わっていこうと思いました。」などの感想であった。一方、「パワポが少し小さい」との要望も見られた。

2) 他学生の感想

12 名の他学生から回答が得られた。「同じ看護学生としてとても勉強になった。今、学校で抑制について考える機会が多かったのもまた新たな知識を得ることができた。抑制解除に関する家族の気持ち etc. 今からの学業に役立てたいです」「実際に看護大学の卒論を見るのは初めてだったのでとても参考になりました。私たちも 3 年後卒論があるので頑張りたいと思わせてくれました。説明もありよかったです」「卒論がどのようなものかわかった。様々なテーマで調べられていて考えを広めるための参考になった」「高校のとき看

護を目指していたのでよかった」「いろいろなことが書いてあったのですごかった」などの感想であった。

一方、「論文内容が難しくてよくわからなかった」「難しい」との感想も見られた。

3) 地域住民からの感想

34名の地域住民から回答が得られた。多くは「興味深い」「勉強になる」等の記述であり、「研究内容に幅があり非常に興味が持てた」「北部地域での看護実習や調査がそれぞれ違う観点からのアプローチでとても興味深かった。一度発表を見てみたくなった」と評価は良好であった。また「卒業までこんなに難しいことを学んでいくんだと感心しました」「学生さんが卒研にまじめに取り組んでいることが分かった」「いろいろ勉強しているんだと思った。実習で来ているのをよく見ます。頑張ってください」「卒業研究をしていることを初めて知ったので少し興味があってきてみてよかった。これからも頑張ってください」「介護をしているので共感することが多かった」「健康管理には様々なことが絡み合っているんだな～と思いました。先生も説明してくださりよかったです。」「高齢化社会では老老介護や一人暮らしの高齢者が増えるのは仕方ないが、地域や隣同士が支えあう環境づくりが必要と思ひ自分も参加しなくてはいけないと思いました。」などの感想であった。

一方、「他の分野と融合した研究テーマが出てくることを期待したい。医療や介護の前線の状況を垣間見ることができたが、民間企業との連携や一般市民への働きかけを通して施設や専門の人々のみの現状を少しでも解消できるとよいと感じた」「これからの看護師はいろいろ苦勞すると思った。気になったことは介護士が看護の指示を受けて仕事をするのではないと思うのですが」「音楽を流すといいと思います」「ちょっと分かりづらい」などの要望や疑問の感想も見られた。

3.看護ケア技術体験の感想（血管年齢及びバイタルサイン測定）

58名の来場者から回答が得られた。血管年齢の測定に人気集中し、血管年齢の測定だけでもしてほしいとの来場者も見られた。実施後は「血管年齢測定してもらって実年齢よりも若かったので安心しました」「なかなか測る機会がなかったので面白かったです」「血管年齢と血圧ともに正常範囲内だった。病院へ行ってもなかなかこのような機会はないのでいい経験になった」など評価の高い感想が多くみられた。また「健康にもう少し気を使おうと思いました」「自分の健康について知っておくことが必要なのでよいと思った」「歩

くことを運動として取り入れていこうと思った」「メタボに注意しながら食事療法をしています」などの自己の健康に関心を向ける感想も見られた。

一方、「定期的に自分の健康を知るためにもこのような機会は学園祭などで増やしてほしい」「血管年齢が高ければどうなるかとか改善仕方などパネルなどで説明書きがあればもっとよい」「学生なので健康チェックの際もう少し情報提供があればと思いました」「測定結果でどういう影響がでるのか説明したら良いかも」「もっと種類があればさらに良い」などの要望も見られた。

4.実施した学生の感想

卒業研究展示と看護ケアの提供を実施した 16 名の学生から感想が得られた。感想の内容から以下の 5 カテゴリーに分類した。

1) 実施前の気持ちについて

実施前の気持ちとして「最初は誰が見学しに来るのだろうと思いました。準備するのも大変だろうし、そんな暇があったら国家試験対策をしたいと正直思っていました」「正直、卒論の展示会に興味を持つ人はいるのかと疑問であり、来ないだろうと思っていた」「はじめはあまり気持ちがのらなかった」等の感想であった。

2) 実施後の卒業研究展示について

卒業研究展示については「予想以上にお客さんが来てくださって、正直驚きました。私たちの卒論を熱心に見てくださる方が多く、質問やお褒めの言葉を頂き、頑張って仕上げた甲斐があったと嬉しく思いました」「在學生や父母、県立看護大学の学生、入学を考えている親子や、4年次の卒論に向けて参考に見に来たと言う学生など含めて 100 人くらい展示を見に来て頂きとっても満足でした」「看護学生や医療従事では無い地域の方々から、質問やお話を受け、とても良い刺激を受け、新たな発見や勉強になりました」「今回の経験を通して外部の方たちによる卒業論文を読んでの質問や意見にはとても考えさせられました」等の感想であった。

3) 実施後の看護ケア提供について

看護ケア提供については「血圧測定や血管年齢測定など、来られた方の健康への関心を感じる事ができて、改めてもっと専門的な知識や技術の学習が必要であると感じた」「健康への意識が高いことを感じ、適切に説明指導をする大切さを学ぶことができました。そのことを、臨床にでてからも活かしていきたいと思います」等の感想であった。

4) 今後の課題について

実施後の課題については「今後は、高齢者・在宅領域だけではなく、様々な領域に声をかけて実施するとより良くなるのではないかと思います」「看護ってこんなこと学んでいくんだと言った声も聞かれたことから、他の学部や地域住民の方にも看護を身近で感じられるよう取り組んでいくことが課題なのかと思った」「看護科があったんだねと聞かれたので看護学科の存在を広めるいい機会にもなったのではないかと感じた」等の感想であった。

5) 実施後の反省について

実施後の反省については「教員との報連相がしっかりできていないこと、学生間でもはっきりとした準備などの状況把握ができていなかった」「教室の広さもあるが、縦に模造紙を2枚張り付けたので見にくかったのではないかと感じた」「興味をひくように血圧測定や動脈硬化測定などの工夫をしていく必要があると感じた」等の感想であった。

5. 来場者の相談や要望

来場者の中には教員への様々な相談や要望が寄せられた。今回は印象に残った4件の相談・要望を取り上げた。

- 1) 親が認知症になったので自分も認知症になるのではないかとこのことで認知症の予防や健康の維持について教員と長時間相談をした高齢の男性がいた。
- 2) 卒業研究展示の中で、特に認知症について興味を持ち詳細な説明を求める若者たちがいた。
- 3) 現在高校生の娘を名桜大学看護学科に入学させたいとのことで相談に来た親子がいた。相談後、大学案内と募集要項を説明し持ち帰っていただいた。
- 4) 看護学科がある大学なのでその特色を生かした企画（救命救急法、看護処置の方法、疾患の説明など）も取り入れてほしいとの要望を訴える家族連れの男性がいた。

IV. 考察

1. 卒業研究展示について

来場した本学及び他学生からは「卒論がどのようなものかわかった。参考になった」との感想が多く、今後卒業論文に取り組む学生へ卒業論文作成の知識やイメージ作りについて貢献していることが考えられた。

一方、「パワポが少し小さい」「論文内容が難しくよくわからなかった」「難しい」との感想も見られた。平成24年度は会場の大きさの関係からポスターを拡大することが困難で、やや見えにくいことが原因と考えられる。また、大学生だけでなく中学・高校生も来場していたため、中学・高校生の感想として卒業研究展示の内容理解が難しかったと思われる。大学における卒業研究を中学・高校生が見学することで興味を持つことは大きな意義があると思われる。さらに中学・高校生でも理解できるような説明を工夫する必要性が考えられた。

来場した地域住民からは「興味深い」「勉強になる」など評価は良好で、研究成果を知ってもらう目的は概ね達成できていると考える。また、卒業研究展示を見ることで自らの健康について意識を高めるだけでなく、地域の状況を把握しながら地域の健康について考える機会となっている。このことは高齢者看護・在宅ケア領域では沖縄県、特に北部地域に関する研究テーマが多く、地域住民が身近に感じるテーマが多いことが理由の1つと考えられる。

一方、大学における教育・研究内容について地域住民への周知が不十分なことも考えられ、今後さらに積極的なアピールが必要と考えられる。また、「他の分野と融合した研究テーマが出てくることを期待したい。医療や介護の前線の状況を垣間見ることができたが、民間企業との連携や一般市民への働きかけを通して施設や専門の人々のみの現状を少しでも解消できるとよいと感じた」との要望が見られた。今後、地域の施設や他の分野と協働した研究への取り組みから卒業研究へと発展できるような教員の工夫が課題の1つとして考えられた。

また、「ちょっと分かりづらい」などの卒業研究に関する疑問も見られ、来場者とのコミュニケーションや説明の不足が原因と考えられた。来場者に対する積極的なコミュニケーションが今後の課題と思われた。

2.看護ケア技術の提供について

血管年齢測定及びバイタルサイン測定では「血管年齢測定してもらって実年齢よりも若かったので安心しました」「なかなか測る機会がなかったので面白かったです」など全般的に好評であった。

一方、「健康チェックの際もう少し情報提供があればと思いました」などの要望も見られた。これらの要望は教員が学生へ十分な説明を行うことができなかつたことや準備ができ

なかったことなどが原因と考えられ、測定した結果をフィードバックする工夫などが反省点として挙げられた。

健康志向が高まっている現在において、看護学科の特色を生かした企画が例年少ない印象があることから、地域住民の要望に応えられるよう看護学科のある大学としての特色を生かした多くの企画に取り組む必要性が考えられる。そのためには、学生が自主的に行う企画以外にも、大学として、学科として教員も含めて大学祭を活用するような取り組みが必要であろう。名桜大学祭がさらに地域住民とのアカデミックな交流や地域還元を行う場となる必要がある。

3.実施後の学生の感想について

平成 24 年度は国家試験対策模試が名桜大学祭 1 日目に行われたことから、当初は名桜大学祭への参加について学生は困惑している様子であった。しかし、終了後は長い期間かけて作成した研究成果の説明や地域住民との交流を通して満足感や充実感を表出していた。卒業研究展示や看護ケアの実施は、学生のモチベーションを上げ様々な学びを得る機会となっていることが考えられた。また、今後の課題として「今回の展示会は高齢者・在宅ケア領域のみの展示だったので、他領域の卒論もいくつか展示した方が良いと感じた」と多くの参加学生から感想が見られた。名桜大学祭で地域住民や学生に幅広いテーマでの卒業研究展示は看護学科のアピールにもつながり、地域住民、学生双方に大きな学びを得る機会であることが考えられる。

今後も参加学生は国家試験対策で忙しい時期であるため、教員は学生の自主性を尊重しながらも十分な説明を行い、出来るだけ負担をかけないように配慮して実施する必要がある。

4.来場者の相談や要望について

来場者の中には様々な相談や要望があった。娘を看護学科に入学させたいとの相談は2年連続してあり、今後も増加することが予測された。また、健康に関する相談も多くみられるが、「看護学科があるのだから看護の特色を生かした企画を多くしてほしい。大学でしかできないことをしてほしい」との要望も聞かれた。地域住民が看護学科に求めているものは自己の健康に関する情報を得ることが中心であると考えられる。そのためには地域住民の人々のニーズを盛り込む企画が必要であり、看護学科における地域貢献として名桜大学祭は重要な機会と考えられた。

V.まとめ

平成 24 年度の名桜大学祭で看護学科 4 年生の高齢者看護・在宅ケア領域の学生 16 名の卒業研究のポスター展示と血管年齢及びバイタルサインの測定を実施し、地域住民や学生に与えた影響は以下のものであった。

1. 本学及び他学生への影響として、今後卒業論文に取り組む学生では卒業論文作成の知識やイメージ作りについて貢献していることが考えられた。一方、中学・高校生の来場者でも理解できるような説明を行う工夫が課題となっていた。
2. 地域住民への影響として、研究成果を知ってもらう目的は概ね達成できていると考えられ、自らの健康について意識を高めるだけでなく、地域の状況を把握しながら地域の健康についても考える機会となっていた。今後、来場者への説明やコミュニケーションをより積極的に行う事が反省となった。一方、大学における教育・研究内容について地域住民への周知が不十分な部分も考えられ、今後さらに積極的なアピールが必要と考えられた。
3. 看護ケア技術の提供の影響については自己の健康に関心を深める機会となっていた。健康志向が高まっている現在において、地域住民の要望に応えられるよう看護学科のある大学としての特色を生かした多くの企画に取り組む必要性が考えられた。
4. 実施後の学生への影響として、当初は名桜大学祭への参加について困惑している様子であるが、終了後は満足感や充実感を表出していた。名桜大学際における卒業研究展示や看護ケアの実施は、学生のモチベーションを上げ様々な学びを得る機会となっていた。
5. 来場者の中には様々な相談や要望があり、名桜大学として、看護学科としても地域貢献の場として名桜大学祭を重要な機会として活用していく取り組みが重要である。

参考文献

細川友秀「学生教育を意図した地域社会への卒業研究のプレゼンテーションの試み」, 京都教育大学環境教育研究年報第 6 号, 39-49 1998.

細川友秀・衣笠尚子「学生教育を意図した地域社会への卒業研究のプレゼンテーションの試み—第 4 報」, 京都教育大学環境教育研究年報第 11 号, 61-70 2003.